

Book Review

Q & A でわかる Muscle Wins! の矯正歯科臨床

近藤悦子 著

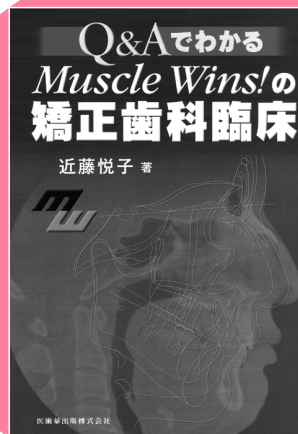


Reviewer

別部尚司 Hisashi J. Beppu

(東京都・別部オーラルヘルスケア&クリニック)

A4判, 224頁
オールカラー
定価(本体22,000円+税)
医歯薬出版刊



「機能を健全化すると歯は適切な位置に並ぶ」「機能の健全化が最高のリテーナーです」、本書の著者である近藤悦子先生が十数年前にサラッとお話しされたことがある。しかし、当時模索しながら臨床を行っていた私には驚愕だった。

このMuscle Wins! (以下MW) システムをわかりやすく、最新の情報が得られるようにするため、本書「Q & A でわかるMuscle Wins! の矯正歯科臨床」が出版された。MWシステムには数々の特徴があり、たとえば「抜歯の基準と時期」が明確である。さらにルースなブラケットとごく軟らかいワイヤーを組み合わせて、アンカレッジバンドを加え、MFTを積極的に組み入れることで、生理学的に機能が発揮しやすい最適な位置に並んでくる。そして、強い力を掛けても一般にはできないと思われていた咬合平面を回転でき、GoAも変えられるといったことである。

特に興味深いキーワード、「舌骨位」「PMライン」「睡眠時無呼吸症候群」などと矯正との関係も、より直感的にわかるように解剖図と対比して理解を助けている。本書は、これら項目を拾い読みしているうちにメカニズム全体が理解でき、「MW臨床」の知識が自然と深まるように設計されている。

適切な筋力を応用して機能を正常化することが目的だから当たり前のこと

なのであろうが、成人矯正で動的治療期間が約半分程度に短縮されて仕上がるのは、やはり驚きである。さらに外科矯正が妥当と思われていた骨格性のⅢ級、シビアなⅡ級の多くの症例もその必要がないなど、このMW臨床は、明るい未来の夢を患者さんにも、先生自身にも、周囲の人にも分け与えてくれるようだ。

たとえばⅡ級過蓋咬合の成人症例(134~135頁)をみると、動的治療期間は12カ月だ。さらに患者さんは、日常生活が楽になったことに感謝していた。実際に狭くなった舌房を増すために咬合高径を挙上したので下顔面が伸び、鼻唇溝などのしわが短く浅くなり、2年後の見た目も改善している。結果から、呼吸を含む下顔面の機能低下が頭頸部不定愁訴の原因になりうることが示唆されてもいる。

Graber先生(元米国矯正学会会長)は、近藤先生の前著の「Muscle Wins! の矯正歯科臨床」のPROLOGUEで、歯科矯正治療におけるメカノセラピーが「構造体のダイナミズムを考慮に入れた評価が欠如している」ことを指摘している。解剖学者Sicher先生の「筋と骨が争えば勝つのは必ず筋なのである」の言葉を引用し、「その位置が持続されるか否かは、結局のところ、口腔顔面と呼吸器系の複合的な機能によって作り出されるダイナミックな動

的力学によって決定される」とした。このMWの理念をすべての段階での基本として、「歯列と顎の位置をたどすのは課題の一部にすぎず、筋神経系の調和(もしくは不調和)を無視することはできない」と記している。

一般に臨床医は、QOLを改善するために、生理的正常の機能・審美・構造・恒常性を導き出すために努力を重ねているが、同時に健康寿命を延伸するために余分な老化を阻止し、均一な老化となることを臨床目標としている。

そもそもヒトにおける機能とは何だろうか? ヒトが地球に適応するためのすべての能力であろうが、トレーディングオフの法則に従って、単位時間のエネルギーを無理なく無駄なく使うことができるように頭頸部機能を整備しておくことがQOLを上げ、健康寿命の延伸を可能とできる礎となることが本書からわかった。呼吸と食の機能を中心とする臨床は、下顔面の機能を向上させることで、われわれはその本懐を遂げることができるようになる。

本書はより良い矯正法を伝える書でもあるが、「ヒトの機能を正常化すると健康寿命が延伸する」という治療の原理・原則を示した書でもあるので、どなたもが一読されることをお薦めしたい。「Muscle Wins! の矯正歯科臨床」もともにお目通しいただくと、さらに理解を深められる。